

教育環境の充実と整備

将来を担う子どもたちが健やかに成長するとともに、確かな学力を習得する環境を作ることが、行政の責務であり、そのための様々な施策に取り組んでいます。

しかし、教育を取り巻く環境は近年大きく変化し、学力保障、いじめ問題、不登校問題等々、問題が多様化、複雑化しているのが現状です。

このため、保育所、幼稚園、小・中学校の連携を強化するとともに、「生き生き桂川つ子」総合推進事業を継続して実施していきたいと考えています。

また、一昨年から導入している少人数学級については、拡大を図るとともに、平成25年度から、小・中学校において年6回の「土曜授業」を実施する計画です。

さらに、小学5・6年生と中学生を対象に開催している「土曜学習教室」の内容充実を図り、土曜日に学校行事や公開授業を実施することにより、開かれた学校づくりを推進していきたいと考えています。



社会教育

社会教育の主な事業としては、「生きる力」を育むために生活体験支援事業「夢・人・未来塾」や「アンビシャス広場」の取組を充実・強化していきます。

社会体育では、総合体育館のトレーニングルームに指導員を配置したことにより利用者が増えるなど大変好評です。平成25年度もさらに充実を図り、町民の健康増進と施設の利用促進を図っていきたくと考えています。

また、勤労者体育センターは、より充実したスポーツの振興を図るとともに、武道の向上に資するため、施設の名称を「武道場」に改め、柔道用畳の改修を行いたいと考えています。

図書館

図書館では、幼いころから本に親しみ、絵本を通して親子のふれあう機会をつくるとともに、子育て支援の充実を図るため、ブックスタート等を実施しています。平成25年度は、図書ボランティアの養成講座を実施し、さらに読書活動を推進していきたいと考えています。



人権・同和問題

人権教育・啓発の推進については、人権・同和問題協議会及び人権教育啓発推進委員会を中心に、市民講座、人権・同和問題地域懇談会及び「人権出前講座」を柱に取り組んでいます。

今後とも、人権教育・啓発の推進を図り、地域社会の中で町民が支え合い、差別のない明るい町づくりを進めてまいります。

文化財

文化財については、平成24年2月から九州大学が寿命区にあります金毘羅山古墳の調査を行っています。本年9月には3回目の調査を行い、平成26年度まで調査が計画されています。徐々に大変貴重な古墳であることが分かっていますので、王塚古墳と合わせた本町の町づくりのシンボルとしての取組を考えたいと思っています。



国の示す平成25年度予算編成

総務省が示した平成25年度の地方財政対策の概要は、「いわゆる15カ月予算の考え方に即して、地方が安定的に財政運営を行うことができるよう平成24年度においては、補正予算に伴う地方負担分について適切な措置を講じるとともに、平成25年度においては、地方交付税等の一般財源総額について、平成24年度地方財政計画と同水準を確保した」とされたところです。